



佐伯 礼子

勤務先：

(株)北開水工コンサルタント
環境水工部水理解析課
〒080-0314 音更町共栄台
西11丁目1番地

TEL 0155-31-0648

FAX 0155-31-4499

E-mail: r-saeki@suiko.jp

専門：建設部門（河川、砂防及び海岸）

＜転職＞

教育大出身の私にとって、土木それも河川分野の仕事に就くことになるとは夢にも思いませんでした。入社した時にはこの資格の名前さえ知らず、「技術士は個人的にどんなメリットがあるのですか」と尋ねたことがあります。その方は「色々な分野の人達と、対等に交流できること」と答えてくれました。しかし、自分には縁のないものと全く気にも留めませんでした。

＜受験の動機＞

受験しようと考えたのは土木技術者女性の会に入り、頂いた名刺から技術士の文字が次々と飛び込んできたのが始まりでした。彼女達の合格時年齢は30代で、昼は仕事、夜や休日は家事・育児に奮闘しながらの受験です。まさにカルチャーショックでした。自分も挑戦しなければと思ってはみたものの、何かから手を付けて良いかわかりません。本1冊で合格できた1次試験と異なり、結果的に多くの人に助けをもらうことになりました。

＜試練＞

不思議なもので書店の本を読んでもピンとこな

かったのが、見知った人から資料を戴いたりすると意欲が湧いてくるものです。しかし、私にとって本当の試練は口頭試験でした。筆記では3度受かったのです。色々理由があったにせよ、9割は合格という数字から受けるマジックと、口頭試験に対する認識が甘かった気がします。2度目の失敗は本当にこたえました。

＜再挑戦＞

落ち込んでいても受験日は確実にやってきます。願書を出してもボーっとしていた私に、喝を入れてくれた人がいました。結局受験とは関係の無いわだかまりまで出すと心が軽くなりました。しかし、さすがに筆記には合格しても、また口頭で不合格になるのではと恐怖心が覆いかぶさってきます。この際恥も外聞もなく模擬口頭試験をお願いすることにしました。今から考えると相手の方の都合も考えず、迷惑をかけたのではと思います。

＜今後に向けて＞

「技術士に合格して」は何度か目を通したことがあります。原稿依頼のお電話をいただいた時、自分が載る立場になったことに違和感を覚えました。改めて読ませていただくと、皆様の誇りや力強さを感じます。「技術士は試験勉強を通して技術士になっていく」といった内容を読んだことがあります。果たして自分はといえば、あまりステップアップした実感がありません。

ただ、世の中には自分の利益になるとは思えないのに、人のために行動して下さる方がたくさんいらっしゃる事がわかりました。受験を通して自分が持つ弱さと、「縁」の大切さを知った気がします。マイペースの私ですが、今後ともよろしく願います。